



かわら版

第1号

平成26年8月
発行 NPO法人あきたNPOコアセンター

◆高齢者に優しいまちを みんなで考えよう！

「住んで良かった秋田へ」

平成26年7月23日（火）にアルヴェを会場に、「エイジフレンドリーシティカレッジワークショップ」の第一回目が開催され、20代から80代までの約二十名が参加しました。

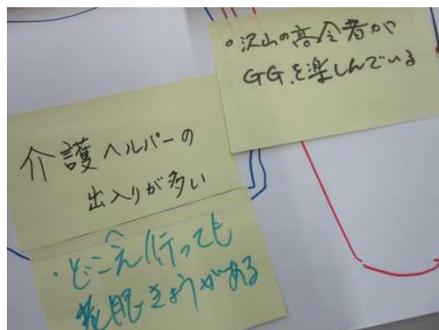
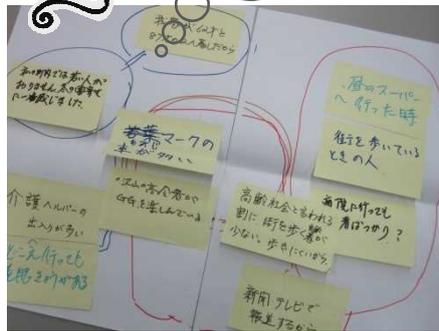
この事業は、秋田市が推進する「市民が主体となり自らが出来ること」について話し合っていくものです。街中で感じる高齢問題や交通の問題、屋外の安全やコミュニティのあり方について等、全5回程度の話し合いを予定しております。

ワークショップ第一回目は「他己紹介（たこしよかい）」からスタート。二人ひと組になって5分間お互いをインタビュースし、紹介カードを作成して、ペアになった相手を紹介するインタビュースゲームです。退職後、認知症予防のため太極拳に挑んでいるかた、旅行会社勤務で全国転勤後退職生活を楽しんでいるかた、トイプードルを飼っているかた、まちづくり活動に参加しており車より徒歩を心がけているかた、大学卒業1年目の新婚さん、娘とピアノを弾くのが楽しみなかた、ゴルフレッスンをいそしんでいるかたなど、メンバーの個性がわかりました。



後半は「高齢社会だと実感することは？」をテーマに、二グループに分かれて意見交換を行いました。意見交換では、付箋に個々の意見を書き、グループで発表しあいながら似たような付箋をまとめて集類していく方法で進められました。

車の「もみじマーク」よく見るようになったなあ～



ワークショップではこのような意見が出されました。前向きな意見も多くあったのが印象的でした。

- ① 町内に若い人がいない
- ② 新聞のおくやみ欄を見たとき
- ③ たくさんの高齢者がグラウンドゴルフを楽しんでいる
- ④ どこに行っても老眼鏡がある
- ⑤ ラジオ体操の老若の人数が逆転
- ⑥ マスコミの言い過ぎ。高齢者が日本一元気なまちにしたい

次回は、秋田駅前を散策しながら気がついたことを意見交換する「まちあるき」を行います。意識しながら歩いてみると、いつもとは違った発見があるかもしれませんね！